

Q 市道以外の整備・補修の考え方は
Q 地域での話し合いを継続し支援策を検討します



理者あるいは利用者が行うものと考えています。現行制度の活用等、地域の皆さんと話し合いを継続し、支援策を検討します。

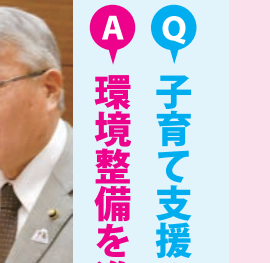
Q 水道以外の整備・補修で、かつて現道舗装された道路は、認定路線から漏れたと考えられないか。また、現道舗装した道路は市が責任を持つべきでは。
答 当時の認定基準に照らし合わせ、市道認定されなかったものと考えています。原則として、道路の管

Q 地域健康づくり連絡会の成果と問題点は
A 検診の受診率向上はしたが一般への周知が課題



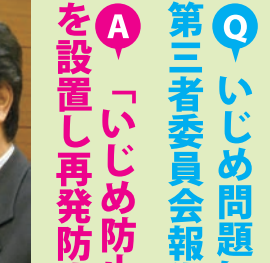
えた地方版総合戦略策定の進捗状況は。
答 総合戦略は、重点事業から選定した「行政の事業」、民間事業者等からの地域資源、資産を活用した「民間の提案」、パネルディスカッションやワークショップ、アンケートからの「市民の声」を反映させ検討を行っています。

Q 子育て支援のための医療費助成の取組は
A 環境整備を進め財政状況も見据えて検討します



え検討します。
問 交流拠点複合施設の建設費が46億に膨れ上がっているが、更に増えることはないのか。中身を見直し、費用を下げる事が可能か。
答 また、完成後の運営コストはどの位を見込んでいるのか。
答 設計を見直し46億円になったもので、総事業費が増えないよう施工監理をさせていただきます。

Q いじめ問題に係る
第三者委員会報告後の取組は
A 「いじめ防止等対策協議会」を設置し再発防止に努めています



地域との懇談会を再開し、毎月11日を「安心・安全の日」として生徒に寄り添う環境づくりに努めています。

問 市内各校の取組は、関係法に合致しているか。
答 全致しています。
問 市では「滝沢市いじめ防止等のための基本的な方針」を本年1月に策定しました。専門機関や関係機関等の18名で構成する「いじめ防止等対策協議会」を設置し、各校へアドバイスしていきます。
問 現在のいじめ認知件

Q マイナンバー制度の市民への説明は
A 国の動向を注視し丁寧に説明します



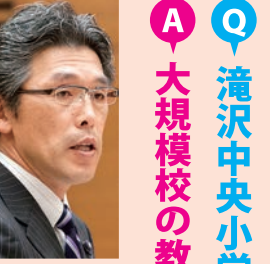
一方デメリットは、情報漏えい等のセキュリティに対する不安、マイナンバーを使った不正行為による新たな被害などの危険が考えられます。

問 住民にとってのマイナンバー制度のメリット、デメリットは。
答 メリットは、社会保障などの給付申請などで添付書類が削減され行政手続きが簡素化されます。
問 行政にとってのメリット、デメリットは。
答 メリットは、情報の照合、転記、入力などが紙から電子的に可能となり、作業に要する時間が短縮されます。また、不当に負担を免れることや不正受給を防止することができると、公平・公正な社会が実現できるとなどが挙げられます。デメリットは、今まで



一般質問 《9月会議》

Q 滝沢中央小学校建設中止の考えは
A 大規模校の教育環境改善のため考えていません



小学校建設が与える影響も含め、今後の市の財政状況は。
答 歳出の扶助費、物件費、繰出し金等の義務的経費の増高という要因に押され、収支の不均衡が見込まれています。

問 滝沢中央小学校の現在の取組状況と問題点は。
答 工事費の高騰と予算編成上の理由から、最大2年の開校延期となる中、問題点を「財源確保」と「事業費圧縮」として、財源確保について増額目標と各種事業見直し等による歳出削減目標を掲げ、収支均衡を保つ計画です。

Q 本市における介護政策は
A 現場の声に耳を傾け対処します



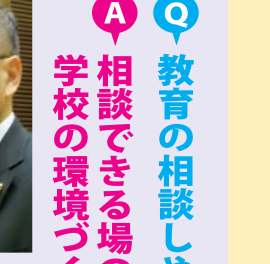
③在宅介護の実態と取組
 ④市内の介護職員の雇用実態は。
答 ①介護認定基準に従い、公正判定しています。また、状態の変化が見られた場合は区分変更を進めるなど、適正なサービスが受けられるよう体制を整えています。

Q 基金・繰越金の活用で
国保税の引き下げは
A 高額医療費など激変緩和の財源として使用します



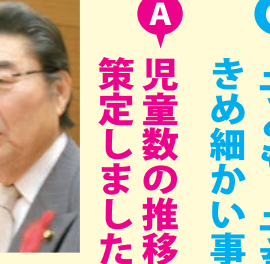
市町村では保険料の賦課、徴収、給付等の実施が大きな役割です。
問 「まち・心・しごと創生事業」は四つの基本目標があり、現状と課題をどう捉えるか。また交付金の活用方法は。
答 国の総合戦略に沿っ

Q 教育の相談しやすい体制の充実
A 相談できる場の周知や
学校の環境づくりに努めます



体制の充実が望まれます。
問 子どもが安心してできる環境整備のための相談体制の充実。
答 各校において年3回の担任との面談を計画的に位置づけ、さまざまな会話の中から相談できる体制づくりを図ってきました。さらに多くの教職員が接する機会を意図的に設け、相談しやすい雰囲気づくりに努めています。

Q 子ども・子育て支援新制度の
きめ細かい事業内容は
A 児童数の推移を基に事業計画を策定しました



今後の児童数等の推移を基に、26年度末に事業計画を策定しました。
問 児童数の多い地域に
答 3点は把握してないが、認可保育所待機児童は4月1日時点で1歳児が1人です。

問 子ども・子育て支援新制度に
答 現在、交流館での「たきざわつ子いきいきクラブ」の2箇所だが、地域の参画を得く、協力と既存施設の利用が不可欠であり、安全安心な子どもの居場所づくり活動が広がるよう、地域と話し合いを続けていきます。